

## [課程一2]

### 審査の結果の要旨

氏名 星野周也

本研究は、要介護の親が特定施設に入居している実子を対象に、質問紙調査を実施し、要介護の親の施設入居前後における介護に関する肯定的評価の変化と、負担感（否定的評価）の軽減との関係性に関して分析し、以下の結果を得ている。

1. 介護に関する肯定的評価のうち、要介護の親への関与意思（介護役割に対する積極的な受容の領域）は、入居前に負担感が高い群で、入居後の負担感軽減が相対的に大きい場合に、低下が見られた。入居前に負担感が低い場合や、入居前に負担感が高くても入居後の負担感軽減が相対的に小さい場合は、変化が見られなかった。
2. 介護に関する肯定的評価のうち、要介護の親への愛着（要介護高齢者との関係における肯定的感情の領域）は、入居前に負担感が高い群で、入居後の負担感軽減が相対的に大きい場合に、向上が見られた。入居前に負担感が低い場合や、入居前に負担感が高くても入居後の負担感軽減が相対的に小さい場合は、変化が見られなかった。
3. 介護に関する肯定的評価のうち、介護を通じた自己成長感覚は、介護負担感が入居前に高いか低いかが、及び、入居後の負担感の軽減量が多いか少ないかに関わらず、向上が見られた。
4. 対象者全般では、施設入居後に、要介護の親への関与意思は低下し、要介護の親への愛着と、介護を通じた自己成長感覚は向上が見られている。対象者全般での結果（モデル1）と、介護に関する肯定的評価の変化と負担感の軽減の関係性に関する上記の結果（モデル2）の比較を通して、介護に関する肯定的評価の変化のうち、要介護の親への愛着の向上（対象者全般での結果）において、負担感の軽減が介在していることが示された。要介護の親への関与意思は、上記の負担感の軽減との関連を考慮しても、全体として、低下が見られた。介護を通じた自己成長感覚の向上には、負担感の軽減は関与していなかった。

以上、本論文は、施設入居前後での負担感の軽減との関係性において、介護に関する肯定的評価の間で、上記の相違を明らかにしている。介護に関する肯定的評価と、負担感（否定的評価）の間の関係性の解明に重要な貢献をなすと考えられ、学位の授与に値するものと考えられる。